

表7-16-2 1号機 事象イベント

凡例 ○：記録あり △：記録に基づき推定 □：解析上の仮定として整理

解析条件			分類	備考	○の場合：記録の参照箇所 △、□の場合：推定、仮定した根拠等
No	日時	解析事象			
1	3/11	14:46	地震発生	○	—
2		14:46	原子炉スクラム	○	5/16 NISA報告 4. 運転日誌類 当直長引継日誌
3		14:47	MSIV 閉	○	5/16 NISA報告 4. 運転日誌類 当直長引継日誌
4		14:52	IC(A)(B)自動起動	○	5/16 NISA報告 3. 警報発生記録等データ アラームタイプ
5		15:03 頃	IC(A)停止	△	5/16 NISA報告 6. 過渡現象記録装置データの記録から、ICが停止しているものと推定
6		15:03 頃	IC(B)停止	△	5/16 NISA報告 6. 過渡現象記録装置データの記録から、ICが停止しているものと推定
7		15:17	IC(A)再起動	△	原子炉圧力の推移 (5/16 NISA報告 2. チャートの記録) から、ICの動作を推定 ※1
8		15:19	IC(A)停止	△	原子炉圧力の推移 (5/16 NISA報告 2. チャートの記録) から、ICの動作を推定 ※1
9		15:24	IC(A)再起動	△	原子炉圧力の推移 (5/16 NISA報告 2. チャートの記録) から、ICの動作を推定 ※1
10		15:26	IC(A)停止	△	原子炉圧力の推移 (5/16 NISA報告 2. チャートの記録) から、ICの動作を推定 ※1
11		15:32	IC(A)再起動	△	原子炉圧力の推移 (5/16 NISA報告 2. チャートの記録) から、ICの動作を推定 ※1

12		15:34	IC(A)停止	△	原子炉圧力の推移（5/16 N I S A 報告 2. チャートの記録）から、ICの動作を推定 ※1
13		15:37	全交流電源喪失	○	5/16 N I S A 報告 4. 運転日誌類 当直長引継日誌
14		18:10	IC(A)系2A、3A弁開／蒸気発生確認	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
15		18:25	IC(A)系3A弁開	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
16		21:19	ICについて、D/D-FPからのラインナップ実施	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
17		21:30	IC 3A弁開	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
18		21:35	ICについて、D/D-FPから供給中	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
19	3/12	1:48	ICについて、D/D-FPを確認したところ、燃料切れでなくポンプ不具合により供給停止	□	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏めに当該の記載はあるものの、本解析では全交流電源喪失以降ICの機能が喪失していたものと仮定 ※2
20		5:46	消防ポンプによる淡水注水を開始	○	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏め ※3

21		14:30	格納容器ベントについて、10:17 圧力抑制室側 AO 弁操作を実施し、14:30 に D/W 圧力低下を確認	△	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏め。ベント成功は、圧力の低下が確認された 14:30 と仮定
22		14:49	格納容器ベント弁閉止	△	D/W 圧力の上昇から、解析上当該事項を仮定
23		14:53	淡水注水終了	○	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏め
24		15:36	1号機原子炉建屋の爆発	○	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏め
25		20:20	海水による注水を開始	○	5/16 N I S A 報告 7. 各種操作実績取り纏め※3

- ※1 全交流電源喪失以前の I C の動作には不明な点があるものの、2. チャートの記録（5/16 N I S A 報告）によると、原子炉圧力は約 6. 2～7. 2 MP a [abs] で推移しているが、S R V 第一弁の逃がし弁機能の設定圧力は約 7. 4 MP a [abs]、吹き止まり圧力は約 6. 9 MP a [abs] であることから、解析上は I C 片系が間欠的に動作したものと仮定。
- ※2 全交流電源喪失以降の I C の動作についても不明な点があるものの、機能したことの記録が不足していることから、I C の機能が喪失しているものと仮定。
- ※3 注水流量変更の時期や注水流量については、7. 各種操作実績取り纏め（5/16 N I S A 報告）に日付毎の炉内への注水量に基づき、日毎の平均流量及び注水総量を超えないように設定。